

第2章 対象事業の内容

第1節 新クリーンセンターの建設に関する基本方針

「一般廃棄物中間処理施設【新クリーンセンター】整備計画」（平成23年9月、佐久市）では、新クリーンセンターの整備にあたり、「周辺地域と調和するとともに環境負荷の少ない安全安定、安心な適正処理が続けられる資源循環型施設を整備する」という理念を遂行するため、以下に示す8項目の整備方針を掲げている。

- ① ごみ処理が適正に行える施設
- ② 環境に優しい施設
- ③ 資源エネルギーの有効利用が図れる施設
- ④ 安定的な稼働が可能な施設
- ⑤ 安全性に優れた施設
- ⑥ 維持管理の容易な施設
- ⑦ 経済性に優れた施設
- ⑧ 周辺環境に適合した施設

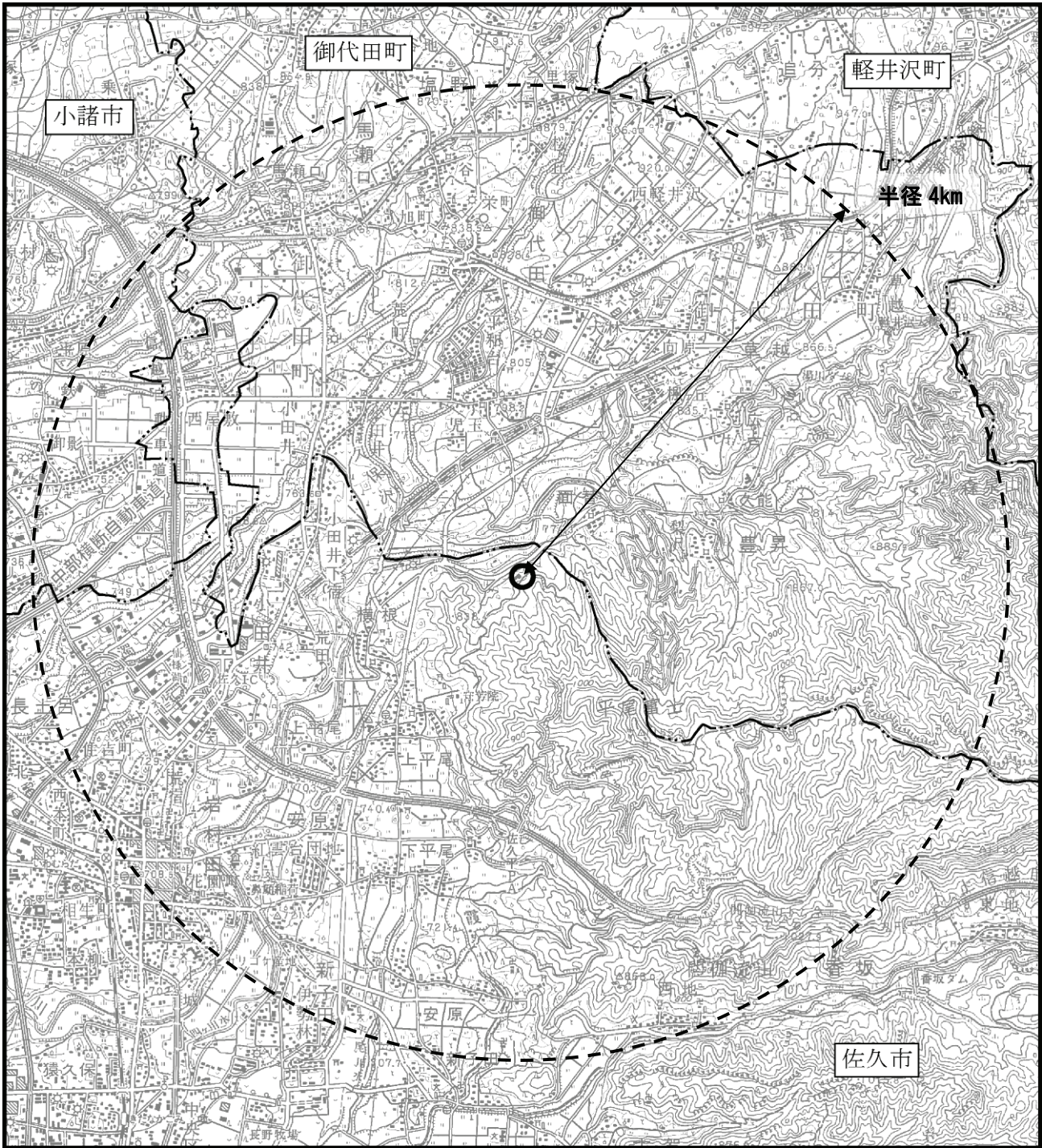
第2節 対象事業実施区域及び調査範囲

対象事業実施区域（建設候補地）の位置は、図2-1に示すとおりである。対象事業実施区域の所在地は、佐久市平根地区上舟ヶ沢及び棚畑地籍内であり、佐久市役所の北東方向約6kmに位置する。

予備調査については、主として既存資料等による調査であり、広範囲にわたって行う必要があることから、計画施設の規模から算出した排出ガスの最大着地濃度出現距離（2kmと予測）の2倍である概ね4kmを調査範囲として調査を行った。

予備調査の結果から環境要素に応じて、それぞれ調査範囲及び調査地点を定めた。

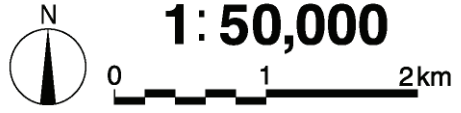
なお、対象事業実施区域及び調査範囲を管轄する市町は、佐久市、御代田町、小諸市及び軽井沢町の2市2町である。



- 凡 例
- : 対象事業実施区域
 - (虚線) : 予備調査範囲

図 2-1
対象事業実施区域の位置及び予備調査範囲

— · — · — : 市町界



第3節 対象事業の規模(処理能力)

対象事業の規模(処理能力)は表2-1に示すとおりである。

規模(処理能力)は、計画施設の稼働目標年度である平成29年度における計画年間日平均処理量、実稼働率、調整稼働率を踏まえ、算定を行ったものである。

表 2-1 対象事業の規模(処理能力)

| 施設の種類 | 施設の規模(処理能力) |
|--------|------------------|
| ごみ焼却施設 | 110t/日(55t/日×2炉) |

第4節 実施予定期間

本事業の実施予定期間は、表2-2に示すとおりである。

環境影響評価手続きを平成23年度～平成26年度にかけて実施する。都市計画決定の手続きについても実施する。

表 2-2 実施予定期間の概要

| 項目 | 平成 23年度 | 平成 24年度 | 平成 25年度 | 平成 26年度 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | 平成 30年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 環境影響評価 | | ■ | ■ | ■ | | | | |
| 都市計画手続 | | ■ | ■ | ■ | | | | |
| 設計・建設工事 | | | | | ■ | ■ | ■ | |
| 試運転 | | | | | | | ■ | |
| 供用開始 | | | | | | | | ■ |

5-2 施設計画

1. 施設計画の概要

現時点で想定している施設計画の概要は、表2-3に示すとおりであり、1日に110t（55t/日×2炉）の一般廃棄物を焼却する施設を建設する計画である。

処理方式は、佐久市新ごみ焼却施設整備検討委員会で調査検討した結果、推奨すべき処理方式としてストーカ式焼却炉が選定され、地元で同意を経て、最終決定された。

処理対象ごみは、表2-4に示すとおりである。

なお、処理フローは、図2-3に示すとおりである。

表 2-3 施設計画概要

| 区分 | | 概要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--------------|--|--------------|-------|--|----|------|------|------|----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|----|------|------|------|-------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 計画処理区域 | | 佐久市、軽井沢町、立科町、御代田町、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 画 概 要 | 計画目標年度 | 平成 29 年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計画収集人口 | 170,411 人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 敷地面積 | 約 1.7ha | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建築物の想定寸法 | 幅約 70m×奥行約 40m×高さ約 30m（煙突高さ 59m 以下） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 処理方式 | ストーカ式焼却炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 運転方式 | 24 時間連続運転 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 施設規模 | 110t/日（55t/日×2 炉） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計画ごみ質 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>低質ごみ</th> <th>基準ごみ</th> <th>高質ごみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水分</td> <td>54.2%</td> <td>44.9%</td> <td>35.0%</td> </tr> <tr> <td>可燃分</td> <td>40.7%</td> <td>49.2%</td> <td>58.5%</td> </tr> <tr> <td>灰分</td> <td>5.1%</td> <td>5.9%</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">低位発熱量</td> <td>6,280KJ/kg</td> <td>9,210KJ/kg</td> <td>12,560KJ/kg</td> </tr> <tr> <td>1,500kcal/kg</td> <td>2,200kcal/kg</td> <td>3,000kcal/kg</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 区分 | 低質ごみ | 基準ごみ | 高質ごみ | 水分 | 54.2% | 44.9% | 35.0% | 可燃分 | 40.7% | 49.2% | 58.5% | 灰分 | 5.1% | 5.9% | 6.5% | 低位発熱量 | 6,280KJ/kg | 9,210KJ/kg | 12,560KJ/kg | 1,500kcal/kg | 2,200kcal/kg | 3,000kcal/kg |
| | 区分 | 低質ごみ | 基準ごみ | 高質ごみ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 水分 | 54.2% | 44.9% | 35.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 可燃分 | 40.7% | 49.2% | 58.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 灰分 | 5.1% | 5.9% | 6.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低位発熱量 | 6,280KJ/kg | 9,210KJ/kg | 12,560KJ/kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1,500kcal/kg | 2,200kcal/kg | 3,000kcal/kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※今後、詳細なごみ質調査を実施し決定する予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 稼動開始年度 | 平成 29 年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 2-4 処理対象ごみ

| 項 目 | 内 容 |
|--------|---|
| 処理対象ごみ | <ul style="list-style-type: none"> ○収集可燃ごみ ○埋立処分中の可燃性ごみ（硬質プラスチック等） ○直接搬入可燃ごみ（布団類等） |

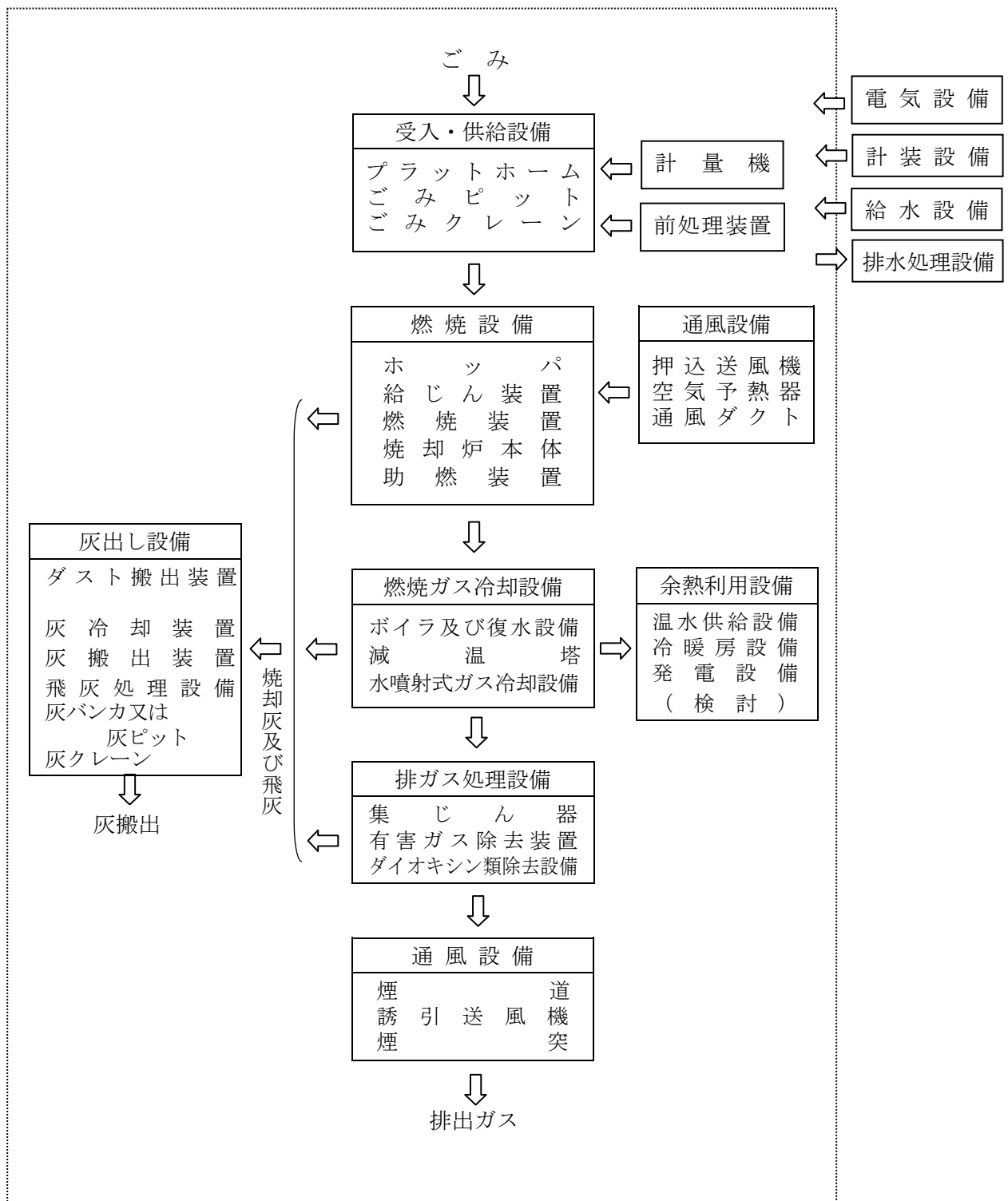


図2-3 処理フロー

2. 排ガスの想定計画値

施設の稼動に係る排ガスの1炉当たりの想定計画値は、表2-5に示すとおりである。
自主規制値については、今後検討を行い、設定する。

表 2-5 排ガスに関する想定計画値

| 項目 | 法規制値 (許容限度) 等 | 関係法令等 |
|-----------------------------|--------------------------------------|---|
| ばいじん | 0.08g/Nm ³ 以下 | 「大気汚染防止法施行規則」(昭和43年11月30日政令第329号)第4条別表第2 |
| 硫黄酸化物 (SO _x) | K=17.5 (約2,200ppm) | 「大気汚染防止法施行規則」(昭和43年11月30日政令第329号)第3条 |
| 塩化水素 (HCl) | 430ppm以下 (700mg/Nm ³) | 「大気汚染防止法施行規則」(昭和43年11月30日政令第329号)第5条別表第3 |
| 窒素酸化物 (NO _x) | 250ppm以下 | 「大気汚染防止法施行規則」(昭和43年11月30日政令第329号)第5条別表第3の2 |
| ダイオキシン類 | 1ng-TEQ/Nm ³ 以下 | 「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」(平成11年12月27日総理府令第67号)別表第1 |
| 一酸化炭素 (CO) | 100ppm以下 | 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」(昭和46年9月23日厚生省令第35号)第4条の5第1項第2号 |

注1) 各排出濃度は乾ガス基準、酸素濃度は12%換算値。

注2) 硫黄酸化物はK値規制であるが、参考までに想定されるガス量により濃度換算して括弧書きで示す。

5-3 受入計画

1. 想定搬入時間

搬入時間帯は日中を想定している。時間帯の詳細は今後検討する。

2. 想定搬出入車両

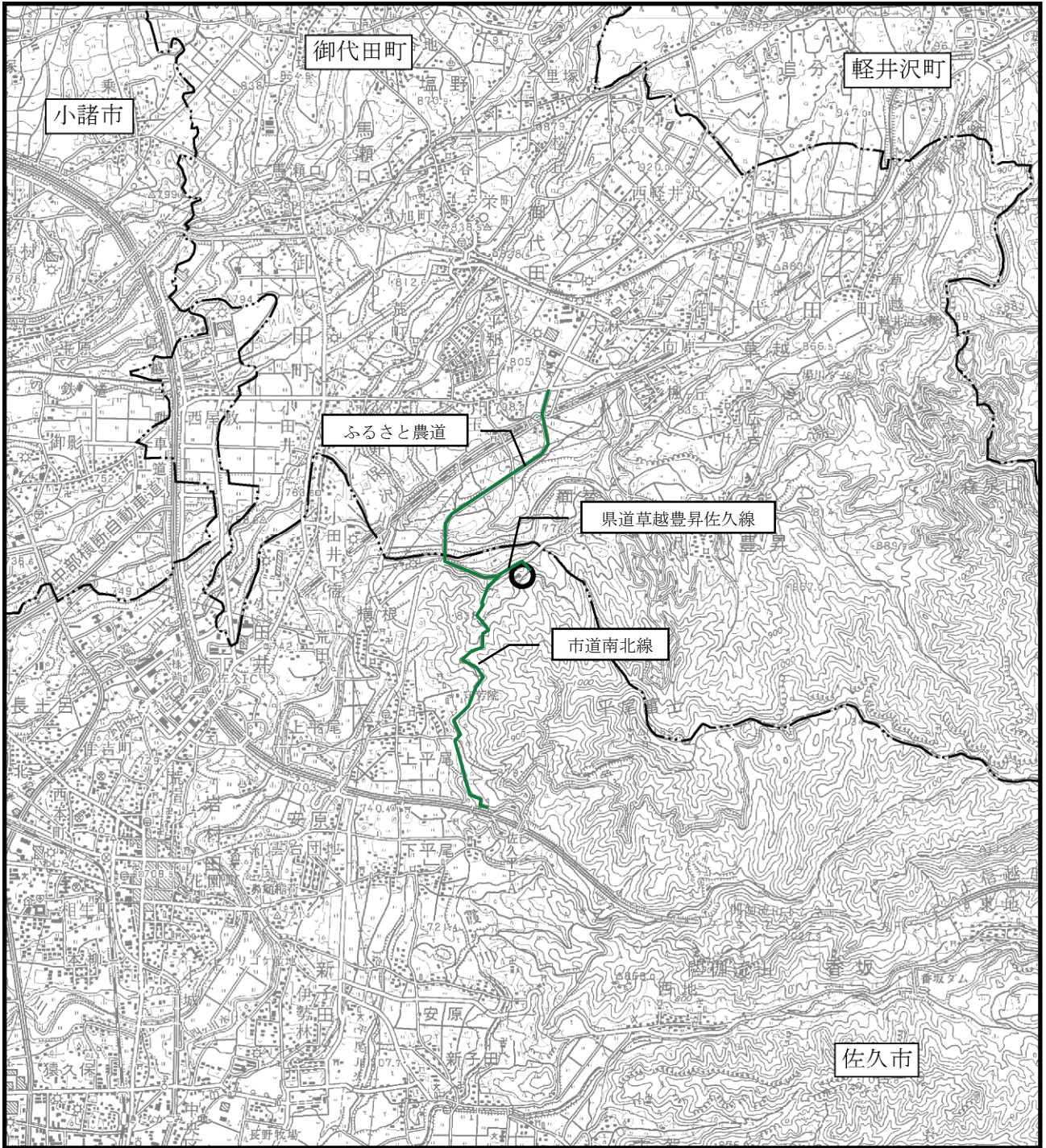
新クリーンセンターには、各市町村の収集車、直接搬入車で搬入される。

稼働目標年度である平成29年度でのごみ搬入体制は、分別収集の大きな変更がなく、基本的に現行と同様であることを踏まえ、収集車の1日当たり平均搬入車両台数を60台/日と想定するとともに、一般車両による直接搬入が見込まれる。

また、新クリーンセンターからの焼却灰及び飛灰の搬出は、平均搬出車両台数を2台/日と想定する。

3. 想定搬出入車両ルート

想定する主要搬出入車両ルートは、図2-4に示すとおり、高速道路、市道南北線、県道草越豊昇佐久線を経由して対象事業実施区域に至るルートを走行する見込みである。



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 想定搬出入車両ルート

----- : 市町界

図 2-4 想定搬出入車両ルート



5-4 給水計画

施設の稼働に必要な各用水は、原則として上水から給水する計画である。

5-5 排水処理計画

1. プラント排水

プラント排水は、原則として無放流とする。

プラント排水には、ごみピット排水、洗車排水、プラットホーム洗浄水、灰ピット汚水、ボイラー排水などが考えられるが、これらはそれぞれ無機系排水、有機系排水に分離し、それぞれに適した系統別処理を行う。

処理水は、再利用水としてプラットホーム洗浄水、ごみピット散水などに用い、残りは炉内噴霧することで施設外に放流しない計画である。

2. 生活排水

水洗式トイレ、洗面所及び浴室等施設内から発生する生活排水については、プラント排水とは分離し、合併処理浄化槽にて処理を行い、処理水は公共用水域に放流する計画である。

3. 雨水排水

雨水は、施設外周部に設置する雨水排水側溝等によって集水し、周辺の排水路を經由し、放流するが、急激な出水につながらないように調整機能を持たせる計画である。

5-6 工事計画の概要

1. 工事工程

本事業における事業計画は、表2-6に示すとおりである。
具体的な工事の作業計画については、今後作成する。

表 2-6 事業計画

| 工事内容 | 工事工程 | | | | |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
| 造成工事 | | ■ | | | |
| プラント工事 | | ■ | ■ | ■ | |
| 試運転 | | | | ■ | |
| 供用 | | | | | ■ |

2. 工事用車両の走行ルート

工事用車両の走行ルートについては未定であるが、市道南北線及び県道草越豊昇佐久線を経由して対象事業実施区域に至るルートを走行する見込みである。

3. 工事中の環境保全対策

施設の建設時については、必要かつ十分な周辺環境への保全対策を実施する必要がある、以下に示す項目を考慮するものとする。

1) 粉じんなどの飛散防止対策等

- ・建設地周辺へ工事用仮囲いの設置
- ・建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等
- ・建設地から退出する工事用車両等の適宜洗車の実施

2) 騒音・振動の防止対策等

- ・工事用車両のアイドリングストップの励行
- ・低騒音・低振動や低公害型の工事用車両、建設機械の採用

3) その他の環境保全対策

- ・掘削残土を仮置きする場合のシートの敷設、土砂を搬出入する場合のダンプ荷台へのシートの敷設
- ・対象事業実施区域からの雨水の流出による沈砂池等の設置

